

事務事業マネジメントシート(平成22年度実績と平成23年度計画)

平成23年10月14日更新

事務事業名		スポーツ体験教室開催事業					☐ マニフェスト関連 ☐ 全庁横断課題関連 ☐ 集中改革プラン関連				
総合計画体系	政策	4	みんな元気で笑顔あふれるまちづくり				所属部	教育委員会事務局教育部	課長名	上原 哲也	
	施策	20	生涯学習の推進				所属課	生涯学習課	担当者名	山田 清	
	基本事業	67	学習・スポーツの啓発				所属班	スポーツ振興班	(内線)	1518	
予算科目		会計一般	款10	項6	目1	事業連番10773	法令根拠	スポーツ振興法		成果優先度評価結果	②
									コスト削減優先度評価結果		⑪
終了、開始年度		☐ 22年度で終了 ☐ 22年度から開始					事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始年度 18 年度) ☐ 期間限定複数年度 (～ 年度)			

★事務事業の概要（具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述）

【事業の内容】 (開始した背景・きっかけ・今後の状況変化を含む)	サッカー・卓球・ミニバレーボール・剣道・エアロビクス・トランポリン・ゴルフ・ヨガ・リズム体操・バドミントン・バレーボール・ピラティス・テコンドー・骨盤リセット・ボクササイズ・スンバ・テニス・フラダンス教室等にそれぞれ各種目協会等から講師を派遣してもらい、スポーツを体験する場を提供する。平成14年度より市民のスポーツへの意欲を喚起、スポーツ未実施者の掘起こしときっかけ作り、スポーツの日常化を目的としたスポーツ体験教室として開始された。平成14年度は1期5教室、参加者84名でスタートし、平成22年度は2期42教室、参加者874名の事業に成長した。開催種目も参加者のニーズに沿ったものを用意し、老若男女問わず参加できるように工夫をしている。
【業務の流れ】	各講師と事業内容協議、施設利用申請、募集冊子作成、申込受付、受講生決定・通知、開講式出席、受講料徴収・収納、閉講式出席、報償費・委託料支払事務
【主な予算費目】	時間外勤務手当、報償費、消耗品費、役務費、委託料、使用料及び賃借料
【意見や要望】 関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？	・住民からは感謝のこたえをいただくことがある。・教室によっては募集人員に制限があるものがあり、抽選にもれた人からの苦情もある。・子ども対象の教室の開催時間を遅くなるので変更して欲しいという要望がある。

1 現状把握の部（DO、PLAN）

(1) 事務事業の目的と指標		新規・拡充区分	
① 手段(主な活動) 22年度実績(22年度に行った主な活動) (DO)		23年度計画(次年度に計画している主な活動) (PLAN)	
前期22教室、後期17教室行い841名の参加があった		毎年度、人気がある教室の実施と、新しい教室を入れていく予定	
① 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位)	予算の主な増減の理由	
→ ア 参加者数	人	スポーツ体験教室開催数の減に伴う、時間外勤務手当、報償費、委託料、使用料及び賃借料の減	
イ 開催教室数	教室		
② 対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等		② 対象指標(対象の大きさを表す指標) (単位)	
市民		→ ア 市民	人
		→ イ	
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)		③ 成果指標(意図の達成度を表す指標) (単位)	
さまざまなスポーツを体験する		→ ア 参加者数	人
		→ イ	
*③成果指標設定の理由と23年度目標値設定の根拠			
市民一人、1スポーツを目指し、できるだけ多くの市民に参加してもらうため。平成22年度目標値は21年度の目標値を達成できるよう設定。			

(2) 各指標・総事業費の推移		単位	20年度実績(決算)	21年度実績(決算)	22年度目標(当初予算)	22年度実績(決算)	23年度目標(当初予算)	24年度予定	25年度見込	総トータルコスト 全体計画 ～ 年度
① 活動指標	ア	人	905	890	905	841	905	950	950	
	イ	教室	42	40	42	39	40	40	40	
② 対象指標	ア	人	54,518	54,856	55,732	55,828	55,751	56,222	56,693	
	イ									
③ 成果指標	ア	人	905	890	905	841	905	905	905	
	イ									
投 入 費 用	事業費	国庫支出金	千円							(期間限定複数年度のみ記載)
		都道府県支出金	千円							
		地方債	千円							
		その他	千円	1,204	1,301	1,110	1,819	1,110	1,180	
		繰入金	千円							
		一般財源	千円	1,514	1,654	2,232	1,188	1,170	1,500	
	人件費	(A) 事業費計	千円	2,718	2,955	3,342	3,007	2,280	2,680	
		(A) のうち指定経費	千円	0	0	963	701	875	953	
		(A) のうち時間外、特約	千円	447	679	963	701	875	950	
		正規職員従事人数	人	6	5	5	5	5	5	
トータルコスト(A)+(B)	延べ業務時間		時間	61	66	66	57	66	123	0
	(B) 人件費計		千円	244	262	262	234	271	506	
	トータルコスト(A)+(B)		千円	2,962	3,217	3,604	3,241	2,551	3,186	

事務事業名	スポーツ体験教室開催事業	所属部	教育委員会事務局教育部	所属課	生涯学習課
-------	--------------	-----	-------------	-----	-------

2 評価の部（SEE）

*原則は22年度の実績評価、ただし複数年度事業は22年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①22年度目標達成度評価 事務事業の当年度実績は当年度目標値を達成したか、未達成の場合その原因は？	☐ 達成した 講師の都合がつかずできなかった教室があり、開催教室数が少なかったため。
	②23年度目標達成見込み 事務事業の次年度目標値に対して次年度の見込みはついているのか？	☒ 目標達成見込みあり⇒【理由】 ☐ 目標達成は厳しい⇒【理由と対策】 アンケートの結果を考慮して新しい教室を入れていく予定なので、参加者が増え目標達成する見込みである。
有効性評価	③成果の向上余地 次年度以降にこの事務事業の成果を向上させる余地はあるか？成果が頭打ちになっていないか？	☐ 向上余地がある⇒【理由】 ☒ 向上余地がない⇒【理由】 予算、場所、講師の問題がクリアされればさらに向上する。
	④類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☒ 他に手段がある（具体的な手段、事務事業） ☒ 統廃合・連携ができる⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができない⇒【理由】 総合型地域スポーツクラブへの移行
効率性評価	⑤事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？（仕様や工法の適正化、住民の協力など）	☐ 削減余地がある⇒【理由】 ☒ 削減余地がない⇒【理由】 現在も講師謝金は低額に抑えており、削減余地は無い。
	⑥人件費（延べ業務時間）の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？（アウトソーシングなど）	☐ 削減余地がある⇒【理由】 ☒ 削減余地がない⇒【理由】 各種目協会に委託するなど効率的に行っている。
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐ 見直し余地がある⇒【理由】 ☒ 公平・公正である⇒【理由】 参加者に千円の負担をお願いしている。（ゴルフ教室は6千円）
役割分担評価	⑧行政の役割分担の適正化 事業事務のやり方や手段においてこれまでの行政、市が行ってきた範囲を住民や地域・団体に移行できないか？	☒ 見直し余地がある⇒【理由】 ☐ 役割分担は適正である⇒【理由】 総合型地域スポーツクラブへの移行が考えられるが、謝金等の問題がある。

3 評価結果の総括（SEE） ※事務事業全体の振り返り、成果及び反省点等を記入

新しい教室を入れようにも空いている場所がない。講師を探すのに苦労する。講師登録人材バンクがあれば探しやすくなる。同じ人が同じ教室に何回も参加しているケースがあり、『スポーツ体験』という趣旨に合っているのか疑問である。

4 今後の方向性（事務事業担当課案）（PLAN）

(1) 今後の事業の方向性（改革改善案）・・・複数選択可 ☐廃止 ☐休止 ☐目的再設定 ☐事業統廃合・連携 ☒事業のやり方改善（有効性改善） ☐事業のやり方改善（効率性改善） ☒事業のやり方改善（公平性改善） ☐現状維持（従来通りで特に改革改善をしない） スポーツ体験を通して健康づくりに取り組む市民を増やし、体力づくり、健康増進のための教室へと向かう。		(2) 改革・改善による期待成果 （廃止・休止の場合は記入不要） <table><tr><td colspan="2" rowspan="2"></td><td colspan="3">コスト</td></tr><tr><td>削減</td><td>維持</td><td>増加</td></tr><tr><td rowspan="3">成果</td><td>向上</td><td></td><td></td><td>○</td></tr><tr><td>維持</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>低下</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				コスト			削減	維持	増加	成果	向上			○	維持				低下			
		コスト																						
		削減	維持	増加																				
成果	向上			○																				
	維持																							
	低下																							
(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題（壁）とその解決策 より多くの市民に体験してもらうためには、空いている施設、講師の発掘が必要であり、相応の経費も必要である。																								